

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23404026

研究課題名(和文) インド洋海域世界における港市の空間的連関・伝播・融合・転成に関する研究

研究課題名(英文) Research on the Linkage, Propagation, Syncretism and Transformation of the Spatial Formation of Port Cities in the Indian Ocean World

研究代表者

山根 周 (Yamane, Shu)

関西学院大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：40285242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インド洋海域の港市において、イスラーム・ネットワークやインド商人のネットワークに着目し、都市、建築の空間的特質とその地域的連関等を臨地調査に基づき明らかにした。アラビア海・インド洋西海域世界においては、グジャラート地方を中心としたインド西部の商人による交易や移住が、東アフリカ沿岸の建築、都市の形成に大きな影響を与えていたことが明らかになった。一方、ベンガル湾海域世界に位置する東南アジアの港市では、タミル・ナドゥ地方を中心としたインド南東部の商人や労働者の交易、移住が建築、都市の形成に影響を与えたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In this research we investigated the spatial characteristics of architecture and urban space of port cities and their linkages between areas in the Indian Ocean World. We revealed that merchants from Gujarat and western Indian coast had an impact on the formation of port cities in the Arabian Sea and western Indian Ocean area in the mid 19th to early 20th century. On the other hand immigrants from Tamil Nadu and south eastern Indian coast had an impact on the formation of port cities in Bengal Bay area and Southeast Asia in the 19th to early 20th century.

研究分野：工学

キーワード：インド洋海域世界 港市 東アフリカ コロマンデル ベンガル湾 東南アジア インド マレーシア

1. 研究開始当初の背景

(1)インド洋海域に関する交易史、政治経済史には多くの研究蓄積がある。家島彦一はそれらをふまえ、イスラーム・ネットワークに焦点を当てることで、一つの大きな歴史的な海域世界としてのインド洋海域世界を提唱した。本研究は家島の視点に大きな示唆を受けている。

(2)インド洋海域世界の都市形成史については、I.ウォーラスティンの世界システム論などを受け、西欧諸国による都市建設とその変容・土着化に関する研究が展開されてきた。

(3)インド洋に面した内陸世界である西アジア、南アジアの都市に関しては、学際的な議論が展開され、建築学の分野でも、イスラーム世界やヒンドゥー世界の都市空間、住居形態に関する実証的な研究と議論が重ねられている。

(4) 東南アジア海域に関しては、いわゆる「港市論」、「港市国家論」の議論があり、建築学の分野では、西欧諸国による植民地建設と多様な土着の民族の居住形態との相互作用による都市形成プロセスや、華人の影響下に形成されたショッピングハウスに関する研究が蓄積されてきた。

(5)上記の学術的背景をふまえながら、本研究は、直接的には「インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する調査研究」(H20～22年度科研基盤研究(B)/代表：山根周)の成果をふまえている。家島彦一の海域区分におけるアラビア海・インド洋西海域世界を対象とした上記研究では、東アフリカ沿岸からアラビア半島南岸、ペルシア湾岸、インド西岸にいたる広大な海域における主要港市の臨地調査をおこない、インド西岸と、アラビア半島南岸地域および東アフリカ沿岸地域が、歴史的に緊密な結びつきを維持し、港市の形成や空間構成に相互に影響を及ぼしあっていたことを明らかにした。特にインド西部のカッチ地方が、19世紀初頭～20世紀前半にかけて、人・モノ・情報の交流において非常に重要な役割を果たし、諸港市における都市、建築、住居の構成に数々の影響をおよぼしていたことなどを明らかにした。

(6)このような背景と経緯の中で、研究対象海域をアラビア海・インド洋西海域世界からベンガル湾海域世界、南シナ海海域世界へと広げ、生態系や社会文化的基盤が異なる海域間の港市の都市、建築、住居に見られる空間的特性を、諸港市間の相互関連、伝播、融合、転成といった観点から明らかにし、上述の先行研究をさらに深化、展開することを目指す本研究を構想するに至った。

2. 研究の目的

(1)本研究は、アラビア海から東シナ海までを包摂する広大な歴史的な海域世界であるインド洋海域世界における港市に着目し、人・モノ・情報の多様な交流の中で形成された諸港市の都市、建築、住居に見られる空間的要素の相互関連、伝播、融合、転成の実態とプロセスを、臨地調査に基づき明らかにすることを目的とする。アラビア海・インド洋西海域世界を対象地域として実施した平成20～22年度の研究成果をベースとし、対象海域をベンガル湾海域世界、南シナ海海域世界へと広げ、アラビア海・インド洋西海域世界との交易、宗教、民族等のネットワークに焦点を当て、特に近世以降にイスラーム・ネットワークやインド商人のネットワークを基盤として形成された港市あるいは港市内の地区を主な対象として比較考察し、生態系や社会文化的基盤が異なる海域間の港市における空間的要素の相互関連、伝播、融合、転成の諸相を明らかにする。

(2)本研究ではイスラーム・ネットワークやインド商人のネットワークと関連の深い i)アラビア海・インド洋西海域世界、ii)ベンガル湾海域世界、iii)南シナ海海域世界の港市を対象とし、15世紀～20世紀半ばを検討対象時期として、以下の事項を明らかにする。

- ①ベンガル湾海域世界、南シナ海海域世界における港市の都市形成と変容過程の解明。
- ②臨地調査に基づく、ベンガル湾海域世界、南シナ海海域世界における港市の都市空間構成の解明。
- ③建築・住居の形式および諸要素の関連、伝播、融合、転成の解明。
- ④インド洋海域世界の各港市間の政治的、経済的関連の史的変遷を明らかにし、港市の空間的関連の史的プロセスを考察する。

3. 研究の方法

(1)各港市の都市構成、建築・住居の空間構成および空間要素の関連等を明らかにするために、まず①地図、文献資料等を収集、分析し諸港市の形成過程の整理をおこない、次に②各小海域内の対象港市の網羅的踏査をおこなった。さらに③鍵となるいくつかの重要港市を選定し、主要施設分布の調査、建造物・住居の実測、聞き取り等を中心とした重点的臨地調査を行った。

(2)イスラーム・ネットワークやインド商人のネットワークにおいては、宗派、民族、カーストなどの集団をベースに交易等の活動がおこなわれていたことをふまえ、各コミュニティの住区および住居、宗教施設、建築材料、

建築構法、建築意匠等に注目した。

(3)臨地調査にあたっては、対象港市の網羅的調査、重要港市における重点的悉皆調査という二段階の調査をおこなった。網羅的調査では、イスラーム・ネットワーク、インド商人ネットワークという観点から、海域内でネットワークの拠点とされてきた港市や地区を抽出し、重点的調査のための地図資料等の収集、主要建築物、街区、住居の選定、聞き取り調査による情報収集等の予備調査をおこなった。重点的悉皆調査においては、以下の三段階の調査をおこなった。

- ① 都市施設分布調査およびコミュニティ分布調査：主要都市施設の分布、街路名称、街区名称および主要コミュニティの分布等を調査し、港市の都市空間構造を把握。
- ② 街区構成調査：宗教、宗派や民族等のコミュニティが集住する特徴的な街区を数区域選択し、街区の境界、施設分布、集住形態等を調査し、街区空間の特質を明らかにした。また、聞き取り調査等により街区の歴史的変容を把握した。
- ③ 重要建築物および住居の実測調査：歴史的に重要な宗教建築、商業建築、また特徴的な型式の住居について実測調査をおこなうとともに、材料、構法、細部意匠等の調査をおこなった。

4. 研究成果

(1) 23年度は、20～22年度に実施した先行研究をふまえ、アラビア海・インド洋西海域世界の東アフリカ沿岸港市における重点的悉皆調査を行うとともに、ベンガル湾海域世界における港市の網羅的調査を中心とした臨地調査を行った。東アフリカ沿岸港市（ラム、モンバサ、ザンジバル、キルワ）の調査では、ザンジバルのストーンタウンにおいて、建築物の構造や用途等の他、屋根形態や扉の表現に見られる、インドやアラブの伝統的建築様式およびそれらが融合したザンジバル独自の建築様式の分布実態に関する悉皆的調査を行った。かつてアラブやインドから渡ってきた商人コミュニティの居住地区が明確となり、ストーンタウンの形成発展プロセスを明らかにすることができたほか、商人たちの出身地の建築様式が、どのように伝播、転成していったかを考察した。また、ベンガル湾海域世界においては、インド東岸を広くコロマンデル地方からベンガル地方にかけて調査し、主要な歴史的港市（チェンナイ、マハーバリプラム、ボンディシェリ、カーヴェリパトナム、トランケバール、ナガパトナム、トゥティコリン、カヤルパトナム、キラカラ

イ、マスリパトナム、ヴィンヤカパトナム、プリー、コルカタ）を踏査したほか、タミル・ナードゥ州南部の歴史的港市キラカライと、古くからの巡礼都市ラーメシュワラムにおいて、悉皆的調査を行い、歴史的建造物および住居の空間的特質や、宗教別コミュニティの分布、都市施設の分布等を明らかにした。(2) 24年度は、ベンガル湾海域世界および南シナ海海域世界において歴史的港市の網羅的調査を行った。調査対象はバングラデシュのダッカ、チッタゴン、ミャンマーのヤンゴン、インドネシアのスラバヤ、スマラン、ドゥマック、クドゥス、ジャカルタ、バンダアチエ、メダン、パダン、パレンバン、マレーシアのジョージタウン、マラッカ、ジョホール・バル、コタ・バル、タイのソンクラエ、パターニー、バンコク、アユタヤ、中国の福州、泉州などである。在地の王室やスルタンのもと、華僑、インド人商人やムスリム商人、また西欧諸国勢力（ポルトガル、オランダ、イギリス）などによって行われた重層的な都市形成が、都市空間、建築様式、住空間の構成に与えた影響を明らかにすることを目的とした。

ミャンマーでは、ヤンゴンにおいて、タミル地方やグジャラート地方など多様な地域に出自を持つインド系の人々が、コミュニティ別に住み分けながら集住している実態が明らかになった。

インドネシアでは、ジャワ島の港市において、15～6世紀以降イスラームを受容する中で、それまでのヒンドゥー的伝統を継承した建築様式が採用されたこと、アラブ系コミュニティの居住地区が残っていること、またスマトラ島の港市において、特にタミル地方に出自を持つインド系の人々が数多く居住していることなどが明らかになった。

マレーシア、タイでは、華僑によるショップハウスが全域にわたって多数見られる一方、インド系やペルシア系、ポルトガル系コミュニティの居住区が存在すること、モスク建築の様式にインドやインドネシア等との共通点が見られることなどが明らかになった。

また東南アジアの港市のショップハウスの原型の一つと考えられる中国福建省の住居について、騎楼、手巾寮などと呼ばれる住居タイプとその空間構成を明らかにした。

(3) 25年度は、ベンガル湾海域世界から南シナ海海域世界の港市を対象とし、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、香港、マカオにおいて調査を行った。

マレーシアでは、クチン、マラッカ、ペナンの調査を行い、華人およびインド系移民が

マレー系住民と混住しながら、民族ごとの居住地を形成している実態が明らかになった。マラッカ、ペナンにおいては、施設分布、建築形態、コミュニティ分布等に関する悉皆調査をおこない、各コミュニティの住み分けの実態や、都市施設の種類の分布に関する詳しい実態を明らかにした。特にインド系コミュニティについては、インドでの出身地方によって居住地や施設分布が分かれていることを明らかにした。

ブルネイの首都バンダル・スリ・ブガワンでは、華人やインド系移民の定着が比較的に少ない一方、マレー系住民の比率が高く、水上集落という特徴的な集住形態を形成している実態を確認できた。シンガポールでは、華人、インド系、マレー系の他、アラブ系コミュニティの存在も確認でき、当初計画的に分散されたコミュニティごとの居住地が現在も継承されている実態を確認した。香港では、モスク（清真寺）、ヒンドゥー寺院、シク教寺院、パールシー（ゾロアスター教徒の一派）の墓地など、インド系移民のための宗教、コミュニティ施設が確認でき、ボンベイやグジャラート地方出身のパールシーが香港開港後間もない19世紀後半には香港に多数到来していたことが明らかになった。マカオでも、インドからパールシーやイスラーム教徒の移住があり、ムスリム墓地の踏査からは、インド各地の出身者がマカオに渡って来ていたことが明らかになった。

(4)研究計画を一部繰越して実施した26年度は、マレーシアのペナンにおいて、コミュニティおよび商店業種の分布に関する悉皆調査を実施し、華人の会館、公司、宗祠、廟などコミュニティ施設の分布の詳細や、華人、インド系、その他のコミュニティと商店業種との関連性について詳細な実態を明らかにすることができた。

(5)本研究では、広範なインド洋海域の港市において、イスラーム・ネットワークやインド商人のネットワークに着目し、都市、建築の空間的特質について調査、分析を行った。アラビア海・インド洋西海域世界においては、19世紀～20世紀前半の、グジャラート地方を中心としたインド西部の商人による交易や移住が、東アフリカ沿岸の建築、都市の形成に大きな影響を与えていたことが明らかになった。一方、ベンガル湾海域世界に位置する東南アジアの港市では、中国南部からの華人の移住が都市形成に及ぼした影響が強く見られたが、19世紀～20世紀前半の、タミル・ナードゥ地方を中心としたインド南東部の商人や労働者の交易、移住が、建築、都

市の形成に影響を与えていることが明らかになり、華人とアラブ系やインド系商人との混住、住み分けの実態も明らかになった。

東南アジアの都市、建築については、これまで植民地時代の西欧による都市計画の影響や、華人によるショップハウスの形成といった点が主たる視点となっていたが、インド系移民によるインパクトの実態を具体的に明らかにした点に本研究の意義がある。

本研究を踏まえ、東南アジアの都市、建築におけるインド系移民のインパクトと、それによって形成された都市、建築の空間的特質をさらに実証的に明らかにしていくことが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計11件)

- ① Naoko Fukami, *Historic Mosques in Southeast Asia: A Comparative Architectural Study Along Indian Ocean, Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis*, 査読無、2014、pp.91-102
- ② 深見奈緒子、モルディブのサンゴ石モスクーインド洋海域建築史を射程に、ヘレニズム～イスラーム考古学研究、査読無、第21回、2014、pp.152-172
- ③ 深見奈緒子、転用材と新材ーカーティアワールの中世イスラーム建築から、ヘレニズム～イスラーム考古学研究、査読無、第20回、2013、pp.147-164
- ④ 布野修司、趙冲、福州上下杭社区（福建省）の住居類型とその変容に関する考察、日本建築学会計画系論文集、査読有、No.682、2012、pp.2689-2695
- ⑤ 布野修司、趙冲、泉州鯉城区（福建省）の住居の平面構成とその変容に関する考察、日本建築学会計画系論文集、査読有、No.681、2012、pp.2499-2506
- ⑥ Naoko Fukami、*What Makes a City Multicultural? – The Many Voices of Penang and Malacca*、*Islam and Multiculturalism: Between Norms and Forms*、査読無、2012、pp.111-119
- ⑦ 深見奈緒子、グジャラート地方の港市における中世のモスク建築—様式史的検討、ヘレニズム～イスラーム考古学研究会、査読無、第18回、2011、pp.186-206
- ⑧ 深見奈緒子、グジャラート州カティアワール地方の港市と中世イスラーム建築、西南アジア研究、査読有、No.75、2011、

- ⑨ 趙冲、布野修司、泉州鯉城区（福建省）の住居類型とその分布に関する考察、日本建築学会計画系論文集、査読有、No.669、2011、pp.2033-2040

[学会発表] (計 40 件)

- ① 山根 周、武末佐恵加、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 その 10、ペナン・ジョージタウンにおけるインド系宗教施設および商店・工房業種の分布、日本建築学会大会、2015年9月4日、東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市)
- ② 深見奈緒子、モスクにあらわれた環インド洋の文化交流、日本建築学会建築計画委員会比較居住文化小委員会公開研究会「人の移動と居住文化 都市が媒介する多様性につながり」、2015年3月7日、建築会館(東京都港区)
- ③ 山根 周、武末佐恵加、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 その 9 ペナン・ジョージタウンにおけるインド系コミュニティの分布、日本建築学会大会、2014年9月12日、神戸大学(兵庫県神戸市)
- ④ Shu Yamane、Project Gujarat: Research and Reconstruction Planning of Cultural Heritage of Kutch, India Affected by 2001 Gujarat Earthquake, Japan-Philippine Conference for Restoration and Conservation of Cebu and Bohol Island's Cultural Heritage、2014年8月1日、University of San Carlos, Cebu (Philippine)
- ⑤ Naoko Fukami、Medieval Port-Cities in Gujarat, India Through Muslim Monuments, International Conference: Patterns of Early Asian Urbanism、2013年11月12日、National Museum of Leiden (Netherlands)
- ⑥ Naoko Fukami、Historical Mosques in Kathiawar, Gujarat: A Comparative Architectural Study along the Indian Ocean, Preservation and Utilization of Historical Buildings - Accumulating Cultural Heritage in Eurasia, Islam and Multiculturalism, JSPS Asia and Africa Science Platform Program、2013年10月24日、京都大学(京都府京都市)
- ⑦ 深見奈緒子、転用材と新材-カーティアワールの中世イスラーム建築から、ヘレニズム~イスラーム考古学研究会、2013

年7月7日、橿原考古学研究所(奈良県橿原市)

- ⑧ 深見奈緒子、シーア派の建築-インド洋海域をめぐる調査から、「シーア派ネットワークの展開と近世アジア世界の再検討」研究会、2013年5月25日、東京大学(東京都文京区)
- ⑨ 深見奈緒子、Historical Mosques in Southeast Asia - Comparative Architectural Study along the Indian Ocean、東方アジアにおけるイスラーム美術、2013年1月12日、早稲田大学(東京都新宿区)
- ⑩ 山根 周、上西慎也、深見奈緒子、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 キラカライ(インド)における都市構成と伝統的住居の空間構成、日本建築学会大会、2012年9月12日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
- ⑪ 山根 周、上田哲彰、岡村知明、布野修司、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 その 7 ザンジバルにおける都市構成、日本建築学会大会、2012年9月12日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
- ⑫ 櫻井藍、布野修司、山根 周、ラーメッシュワラム(インド、タミル・ナードゥ州)の空間構成に関する考察、日本建築学会大会、2012年9月12日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
- ⑬ 趙冲、布野修司、泉州鯉城区(福建省)の住居の平面構成とその変容に関する考察、日本建築学会大会、2012年9月12日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
- ⑭ 大日方覚、山田香波、趙冲、布野修司、福州上下杭社区(福建省)の空間構成に関する考察 その 1 - 社区構成と施設分布-、日本建築学会大会、2012年9月12日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
- ⑮ 小寺磨理子、山田香波、趙冲、布野修司、福州上下杭社区(福建省)の空間構成に関する考察 その 2 - 住居類型とその分布-、日本建築学会大会、2012年9月12日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
- ⑯ 山田香波、趙冲、布野修司、福州三坊七巷(福建省)の住居類型に関する考察、日本建築学会大会、2012年9月12日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
- ⑰ Naoko Fukami、Garden as Paradise in Arid Area - From Persian Traditional Architecture、Seminar of National Palace Museum、National Palace Museum、2011年12月23日、Taipei(台

- 湾)
- ⑱ Naoko Fukami、What is the Multi-Cultural City? - Many Voices from Penang and Malacca, Islam and Multiculturalism - Between Norms and Forms, 2011年11月27日、早稲田大学(東京都新宿区)
- ⑲ 山根 周、プロジェクト・グジャラートの試みーインド・カッチ地方における震災後の調査研究と文化遺産を軸とした復興計画ー、日本建築学会大会建築歴史・意匠部門パネルディスカッション、2011年8月23日、早稲田大学(東京都新宿区)
- ⑳ 山根 周、岡村知明、中田翔太、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 その5 キャンベイにおける街区空間の構成、日本建築学会大会、2011年8月23~25日、早稲田大学(東京都新宿区)
- 21 山根 周・中田翔太・岡村知明、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 その6 キャンベイにおける伝統的住居の空間構成とその類型、日本建築学会大会、2011年8月23~25日、早稲田大学(東京都新宿区)
- 22 布野修司、趙冲、泉州鯉城区(福建)の住居類型に関する考察、日本建築学会大会、2011年8月23~25日、早稲田大学(東京都新宿区)
- 23 布野修司、榎本雅司他、杭州市における姚園寺巷社区の空間構成に関する考察 その1 街路構成と施設分布、日本建築学会大会、2011年8月23~25日、早稲田大学(東京都新宿区)
- 24 布野修司、山田香波他、福建・漳州市における郷城区の空間構成に関する研究 その1 街路体系と施設分布、日本建築学会大会、2011年8月23~25日、早稲田大学(東京都新宿区)
- 25 布野修司、河野菜津美、福建・漳州市における郷城区の空間構成に関する研究 その2 住居類型とその分布、日本建築学会大会、2011年8月23~25日、早稲田大学(東京都新宿区)
- 26 布野修司、櫻井藍他、福州・朱紫坊(福建)の空間構成に関する研究 街路体系および施設分布、日本建築学会大会、2011年8月23~25日、早稲田大学(東京都新宿区)
- 27 深見奈緒子、グジャラート地方の港市における中世のモスク建築ー様式史的検討、ヘレニズム~イスラーム考古学研究会、

2011年7月3日、榎原考古学研究所(奈良県橿原市)

- 28 深見奈緒子、イスラーム建築史の魅力と課題、日本建築学会九州支部歴史・意匠委員会、2011年6月4日、国立大学九重共同研修所(大分県玖珠郡九重町)
- 29 深見奈緒子、イスラーム建築の世界史、メガ都市プロジェクト歴史班研究会、2011年5月28日、京都大学(京都府京都市)

[図書](計2件)

- ① 山根 周、関西学院大学出版会、建築・都市デザインの構成原理ーインドにおける都市空間の構成原理(『政策とデザインの融合を目指して』所収)、2014、pp.287-319
- ② 深見奈緒子、岩波書店、イスラーム建築の世界史、2013、264頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

山根 周 (YAMANE, Shu)
 関西学院大学・総合政策学部・准教授
 研究者番号：40285242

(2)研究分担者

深見 奈緒子 (FUKAMI, Naoko)
 早稲田大学・イスラーム地域研究機構・上級研究員
 研究者番号：70424223

布野 修司 (FUNO, Shuji)
 滋賀県立大学・事務局・教授
 研究者番号：50107538

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

鈴木 英明 (SUZUKI, Hideaki)
 日本学術振興会特別研究員

武末 佐恵加 (TAKEMATSU, Saeka)
 関西学院大学大学院・総合政策研究科・博士前期課程